

1 日本と海外との交わりについて述べた次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「わたしの祖先は、みずからよろいやかぶとを身につけ、山や川をかけめぐり、東は55国、西は66国、さらに海をわたって95国を平定しました。」

上の史(資)料は、ヤマト政権(王権または朝廷)の大王だったワカタケルが、中国(宋)の皇帝に送った手紙の一部です。この手紙は、ワカタケルが日本(倭)の大王であることを中国の皇帝に認めてもらうために送ったものです。中国周辺の国々の王が、支配している国や地域の王であることを中国の皇帝に認めてもらう関係は、ワカタケルの時代以前からすでにできていました。

7世紀の初め、聖徳太子(厩戸王または皇子)は、小野妹子を遣隋使として中国に送りました。隋がほろんで唐がおこった後も、日本は中国に使節を送り続けます。それは、たんに対等な付き合いを求めたとか、仏教などの文化を学ばせたというだけにとどまりません。先に述べた、中国の皇帝と日本(倭)の大王または天皇の関係が、7・8世紀にも続いていったからなのです。

10世紀の初め、唐がほろぶと、日本は中国と正式な国交を結ばなくなります。しかし、室町時代になると、三代將軍足利義満は、中国(明)の皇帝に日本国王として認めてもらい、勘合貿易とよばれる貿易を始めました。これは、唐の時代以来の正式な国交を結んだ貿易ですが、この時代にも中国の皇帝と日本の王との関係が続いていることがわかります。もちろん、その間にも平清盛が中国(宋)との間で貿易を行い、鎌倉時代には、元が二度にわたって北九州にせめて来ることもありました。

室町幕府がほろんだ後、全国を統一した豊臣秀吉は、付きしたがった大名たちの不満を外国にそらすため、朝鮮半島に大軍でせめこみました。江戸時代、三代將軍徳川家光は限られた国や地域との貿易しか行わないことにしました。しかし、幕府がそのような政策を続けることは困難になり、アメリカの使節ペリーの要求に屈して世界に国を開くことになりました。

明治維新の後、新政府は新しい国づくりのモデルをこれまでの中国ではなく、アメリカやヨーロッパ諸国に求めました。当時、それらの国々は世界中に植民地をもとうとしていました。なかでも政治的・経済的・軍事的な中心となったの

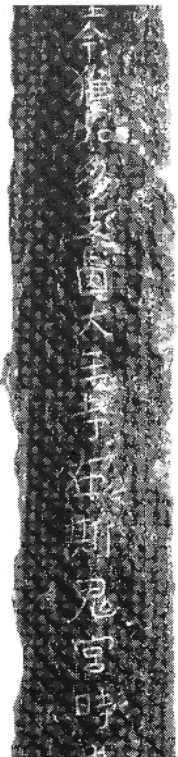
はイギリスでした。日本は、日露戦争まではイギリスと友好的な関係を保っていました。しかし、第一次世界大戦のころから、おもに中国支配をめぐる対立を深めていきました。この後、日本は同盟国側、イギリスは連合国側について第二次世界大戦に参戦することとなりました。1945(昭和20)年、連合国側のアメリカ軍によって原爆が投下され、日本はポツダム宣言を受け入れて降伏しました。

第二次世界大戦後、日本はさまざまな改革を行いました。1952(昭和27)年に独立を回復すると、1956(昭和31)年には国際連合に加盟し、国際社会に復帰しました。その後、工業を中心に経済を発展させ、先進国の仲間入りをしました。しかし、今日の日本は環境問題をはじめさまざまな問題をかかえています。

問1 下線部①のワカタケルの国内支配に関して、右の写真の鉄剣が埼玉県の稲荷山古墳から出土したことで新たなことがわかりました。一つは、すでに熊本県江田船山古墳から出土していた鉄刀に刻まれていた「獲口口口大王を、獲加多支爾大王と正しく読めるようになったこと」です。このことをふまえて、稲荷山古墳から出土した鉄剣に刻まれていた文章によってわかったもう一つのことを、【大意】を参考にして説明しなさい。

【大意】

辛亥の年(471年)7月中記す。わたしはこの刀を作らせた豪族のオワケの臣です。わたしの祖先は8代にわたって大王を守る軍隊の隊長をつとめてきました。ワカタケル大王の寺(役所のことか)が斯鬼宮(シキとは奈良県の磯城郡のこと)にあったとき、ワカタケル大王が天下を治めるのをたすけるあかしとしてこのよい刀を作らせ、わたしがつかえてきた根源を記させました。



【稲荷山古墳鉄剣銘】

問 2 下線部②の遣隋使や遣唐使は、仏教以外に何を中国に学びに行ったのですか。説明しなさい。

問 3 下線部③の戦いを描いた下の史(資)料の中で、元軍が使用した火薬兵器は、何とよばれていますか。



問 4 下線部④の秀吉の朝鮮出兵が二度にわたって行われた目的は何ですか。説明しなさい。

問 5 下線部⑤の状態になっても、日本(幕府)と他の国(地域)の交渉の窓口はいくつかありました。その中で、蝦夷地に住むアイヌの人々との交易は松前藩が行っていました。ところが、和人(アイヌとのかかわりで日本人自身をさすことば)たちが不正な取引を行ったり、自然を荒らしたりしたので、アイヌの人々は団結して立ち上がりました。17世紀半ばに、アイヌの人々を率いて戦ったのは誰ですか。次のア～エの中から正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア シャクシャイン

イ コシャマイン

ウ アテルイ

エ 川村カネト

問 6 下線部⑥の1800(寛政12)年、佐原(現在の千葉県香取市)の伊能忠敬は、自費で海岸を測量しました。忠敬の技術に驚いた幕府は、全国測量を忠敬個人の事業ではなく、幕府の事業としました。忠敬の測量技術の高さ以外に、全国測量を幕府の事業とした理由はどこにありますか。忠敬が生きた時代のことを考えながら説明しなさい。

問 7 下線部⑦のイギリスは、世界各地に植民地をもっていました。それらの植民地の多くは第二次世界大戦後、新しい国として独立しました。このうち、以下のⅠ～Ⅲのすべての条件を満たす国名を答えなさい。

Ⅰ かつてはイギリスの統治下にあったが、1948(昭和23)年に独立した。

Ⅱ 第二次世界大戦中の日本人外交官の顔がデザインされた切手が発行された。

Ⅲ 2006(平成18)年夏、この国はすぐ北の国に軍隊を侵入させて、大きな国際問題になった。

問 8 下線部⑧の中国支配に関するア～オの事柄を、年代の古い方から順に正しく並べ替えなさい。

ア 日本が国際連盟を脱退する。

イ 日本軍が首都ナンキン(南京)を占領する。

ウ 日本軍と中国軍がペキン(北京)郊外で衝突する。

エ 国民全員を総動員する法律を出す。

オ 満州(現在の中国東北部)で日本軍が中国軍を攻撃する。

問 9 下線部⑨の戦後の改革について述べたもっとも適切な文を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア それまでの帝国大学が廃止され、新しく大学をつくることも制限された。

イ 国が強制的に地主から土地を取り上げたので、地主の経済力は以前より弱くなった。

ウ 6・3・3・4の新しい学制が整えられ、義務教育はそれまでの3年から9年になった。

エ 普通選挙が実施されたが、女性は議員になることができなかった。

問10 下線部⑩のように、日本は独立後すぐに国際連合に加盟したわけではありません。国際連合に加盟する直接のきっかけになったできごとを答えなさい。

(2 は次のページから始まります。)

- 2 日本と世界との関係について、図1・図2の世界地図をみて、あとの問いに答えなさい。

図1

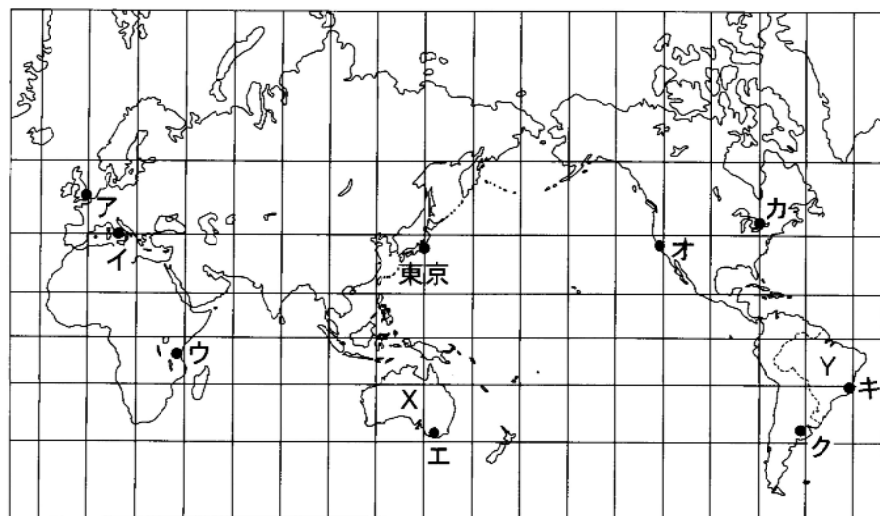
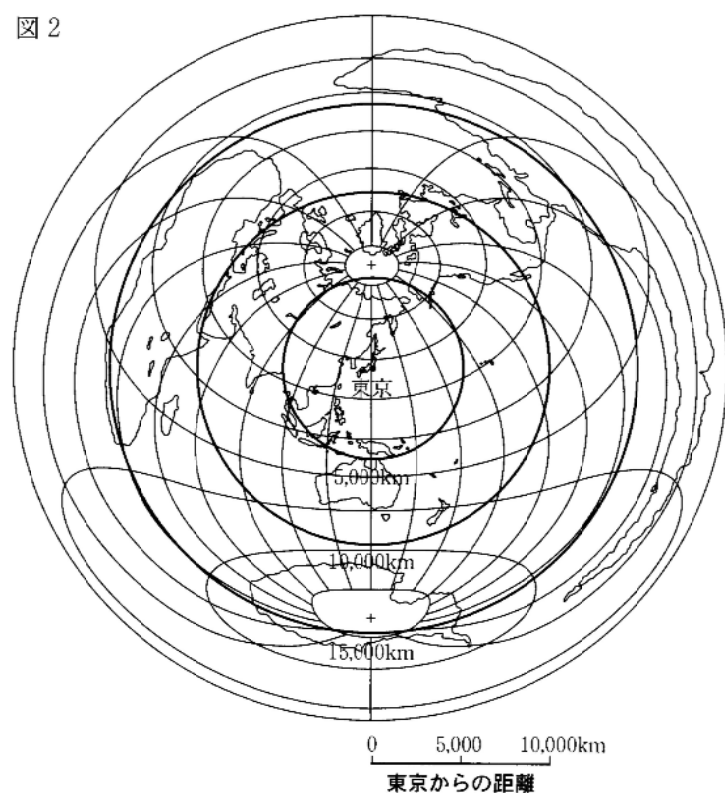


図2



戦後、日本では急速に国際化が進み、世界の多くの国や地域とさかんに交流し、貿易も行っています。^①日本と世界との関係を考える上で、世界地図は大変重要であり、また便利なものです。しかし、球体である地球の表面を平面に直した世界地図は、すべての事柄を同時に正しく表すことができません。たとえば、図1はメルカトル図法の世界地図です。緯線と経線が直線で直角に交わる長方形の地図で、もともとは航海用の地図として考え出されました。世界全図として利用されることもありますが、形や面積・距離・方位(方角)は正しく表されません。次に、図2は正距方位図法の世界地図です。円の形をした地図で、大陸の形は大きくゆがみますが、中心地点と他の地点とを結ぶ直線の距離と方位(方角)が正しく表されます。このように、世界地図を利用するときには、何が正しく表される地図であるのかを確かめて、目的に合ったものを選ぶ必要があります。^③

問1 下線部①の日本と世界各国(地域)との貿易に関する次の1～5の表は、世界の主要な国々がそれぞれ日本へ輸出している主な品目の上位を示しています。図1に示されたXの国と、Yの国の表をそれぞれ選び、1～5の数字で答えなさい。

表1～5 主な国の日本への輸出品目の上位10品目とその割合(%) (2005年)

表1		表2		表3	
衣類	16.1	鉄鉱石	30.3	木材	13.7
機械類	13.5	肉類	18.2	肉類	11.9
バッグ類	11.2	アルミニウム	9.5	石炭	8.5
医薬品	7.2	コーヒー	6.7	機械類	8.0
有機化合物	5.3	有機化合物	5.1	なたね	6.5
はきもの	4.8	大豆	3.9	魚介類	5.5
自動車	3.5	鉄鋼	3.5	パルプ	4.7
家具	2.7	パルプ	3.5	銅	4.4
精密機械	2.2	ウッドチップ	2.7	アルミニウム	3.8
ぶどう酒	1.8	果実	2.6	小麦	3.5

表4		表5	
機械類	23.5	石炭	32.5
医薬品	17.7	鉄鉱石	12.5
自動車	12.5	液化天然ガス	11.9
精密機械	4.1	肉類	9.1
有機化合物	3.3	アルミニウム	4.4
ウイスキー	2.3	原油	3.1
自動車部品	2.2	ウッドチップ	2.9
無機化合物	1.9	銅	2.8
書籍・新聞・雑誌	1.8	液化石油ガス	2.0
ニッケル・合金	1.6	魚介類	1.3

「日本国勢図会第64版
(2006/07)」より

問 2 下線部①の日本と世界各国(地域)との貿易に関する次の問いに答えなさい。
日本の食料自給率は年々低下し、多くの食料を海外からの輸入に頼^{たよ}っています。これによって生じる食料の安全性以外の問題点を説明しなさい。

問 3 下線部②のメルカトル図法に関する次の問いに答えなさい。ヨーロッパでは、日本を「極東」の一部とすることがあります。「極東」は英語の「Far East」を訳した言葉で、「Far」は「遠い、離^{はな}れた」、「East」は「東、東洋」という意味です。なぜ日本の辺りを「極東」と呼ぶのでしょうか。説明しなさい。

問 4 下線部③に関する次の問いに答えなさい。図 1 に示したア～クの都市に、東京から飛行機に乗って最短距離で行こうとする場合、次の A～C にあたる地点はそれぞれどこですか。ア～クの記号で答えなさい。

- A 東京からほぼ東の方向へ飛行するのが最短距離の都市。
- B 東京からほぼ西の方向へ飛行するのが最短距離の都市。
- C 東京からほぼ北の方向へ飛行するのが最短距離の都市。

問 5 下線部③に関する次の問いに答えなさい。図 2 は円の形をした世界地図ですが、一番外側の円(中心点から 20,000 km の距離)は何を表していますか。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

第二次世界大戦後、日本は日本国憲法を制定し、新たな国づくりに取り組みました。この中で大切にされた考え方の一つに、国民主権という考え方があります。この考え方は、国の政治をどのようにしたいかを最終的に決める力を国民が持つというものです。戦前の大日本帝国憲法では、この力を天皇が持っていました。しかし日本国憲法では、天皇は「日本国及び日本国民統合の(ア)」とされ、政治的な力はいっさい持たず、(イ)の助言と承認^{しょうにん}を受けた国事行為^{こくじこうい}のみを行うことになりました。

「国民が国の政治のあり方を最終的に決める」という考え方は、「国民が話し合いを通じて国の政治のあり方を決める」という民主主義^①の考え方に基づいています。民主主義の考え方は、現在日本をはじめ多くの国々で取り入れられています。そして、国民が代表者を通じて政治のあり方を決めていく方法^②が主に用いられています。

問 1 文中の空欄(ア)・(イ)に入る適切な語句を答えなさい。

問 2 下線部①の民主主義の考え方では、最後は多数決によってさまざまなことが決められますが、それだけを強調するのはきわめて危険です。民主主義では、多数決をとるにいたるまで、つねにどのようなことを考えなければならいでしょうか。説明しなさい。

問 3 下線部②の方法について、日本では国民(地方自治体の場合は住民)が選挙によって代表を選び、民主主義を実現しています。住民が関^{かか}わることでできる地方自治体の選挙は、いくつありますか。数字で答えなさい。

問 4 下線部②の方法に関しては、近年の日本では、投票率の低下が大きな問題となっています。投票率を向上させるために行われている対策として正しくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 投票時間を延長した。

イ 投票しなかった人に罰則^{ばっそく}をもうけた。

ウ 外国にいる日本人が投票できるようにした。

エ 投票日以外でも投票しやすくした。

問 5 下線部②の方法以外に、民主主義には、国民が直接意思を表す方法(制度)もあります。その方法(制度)の例として、国に関わるものを一つあげなさい。(注：地方自治体に関わるものではありません。)

1

問 1				
問 2				
問 3				
問 4			問 5	
問 6				
問 7		問 8	→ → → →	
問 9		問 10		

2

問 1	X	Y		
問 2				
問 3				
問 4	A	B	C	
問 5				

3

問 1	ア	イ		
問 2				
問 3		問 4		
問 5				

社 会	